

## 第十八回 北九州中世史の象徴 花尾城址



山頂の花尾城本丸跡

八幡の市街地の南、帆柱山系の一角である標高351.1の花尾山に、北九州の中世史、山城を代表する花尾城址がある。この地はかつて地元の麻生氏をはじめ大内、大友勢による戦乱に明け暮れた。今、市街地、洞海湾を眺望する平和な公園として市民に親しまれているが、そこには悲話も眠っていた。

花尾城は本丸のある山頂から東西に約600mに延びる尾

根筋の17の郭、5か所の堀切、畝状の堅堀群などで構成され、今日でも多くの石垣、石塁が残っている。地元の郷土史家中村修身さんの「北九州・京築・田川の城―戦国史を歩く―」によると、本丸北側斜面には長さ約40mにわたる日本の城郭史上、貴重な石塁が築かれていた。残念ながら現在は公園整備のためとして階段に造り替えられたという。

### 麻生氏内紛が引き金？

筑前国続風土記によると花尾城は建久5年（1194年）、関東の名族で麻生氏の祖でもある宇都宮一族の宇都宮重業築城と伝えられる。麻生氏は1400年代前半、山口の大内氏の被官となった。文明10年（1478年）、花尾城に籠る麻生家延と親族の弘家による家督争いが勃発、3年間の内戦の末、大内の支援を受けた弘家が継いだ。

天文年間になると大内の重臣が入城、だがそれも大内滅亡で消え、再び麻生氏の手内。内紛はさらに起きて城主が交代したのも束の間、今度は秀吉の九州平定に屈して最後の城主麻生家氏は天正14年（1586年）、筑後へ所替えになった。この間、大内と敵対する大友勢が入城したこともある。

### 悲運の伝承 オペラに

花尾城には1490年代、時の城主麻生重郷の側室「紅



浄蓮寺境内（八幡西区藤田1）に祀られている紅梅地蔵堂

梅姫」が、正室から無実の罪を着せられて自害。姫の霊がその後、正室やその家来に取りついて死に追いやった。重郷は後日、姫の無実を知って後悔し地蔵を祀って慰霊したという伝承がある。八幡西区の浄蓮寺には紅梅地蔵が祀られ、地元の音楽家宮吉秀一さん（71）はこの悲話をオペラにして寺で上演した。「姫の一念な思い、当時の人の純粋さに魅かれます」と宮吉さん。山頂に至る登山道脇には、なぜか赤穂四十七士の墓もある。大正時代、社会的弱者、貧窮児の救済に尽くし北九州で初めて幼稚園を設立した僧眞田増丸の建立とされる。この山、城には人を引き付ける何かがあるのかもしれない。

シニアスタッフ 村田和夫

集い・語り・元気に！

さくら生涯学習講座

受講料 500円 さくら編集部 ☎ 965-6080

北九州 歴史文化塾

3月30日(木) 13:00~14:30

### テーマ 「花尾城と紅梅姫」

- 開催場所 浄蓮寺（八幡西区藤田1丁目5-28）
- 講師 浄蓮寺住職

戦国時代、八幡の花尾城も戦乱に明け暮れ、京都の公家・冷泉家の姫にまつわる悲話も生まれました。姫を祀る浄蓮寺ご住職に話を伺います。



花尾城址の碑